郵便馬車の馭者だった頃

【訳詞】井上　頼豊
【詞曲】ロシア民謡

□□□□

1.
郵便馬車の馭者だった　俺は若くて力持ち
そこは小さな村だった　俺はあの娘に惚れていた

2.
娘に不幸が見舞うなぞ　俺は夢にも知らなんだ
馭者の稼業は西東（ニシヒガシ）心はいつもあの娘

3.
安らいのない日々だった　想いは深く胸痛む
ある日かしらが手紙を渡し「早く頼むぞ駅どめだ」

4.
馬はいななき鞭がなる　はやてのように野を走る
だけど胸はつぶれそう　あの娘とこんなに遠くなる

5.
風が悲しくほえていた　ふいに馬めが暴れだし
怯えたように脇を見た　俺には訳が解らない

6.
動悸が激しく高まって　俺は見つめた雪の中
暴れる馬から飛び降りた　誰かが道に倒れてる

7.
吹雪は渦巻きあれていた　俺は雪をばかき分けた
血の気が失せて立ちすくみ　寒さがシューバにしみた

8.
皆の衆　あの娘が死んでいた　茶色の瞳を閉じて
酒をくれ早く酒を　もうその先は話せない

□□□■

郵便馬車の駅者だった頃

【訳詞】井上 頼豊
【詞曲】ロシア民謡

1.
郵便馬車の駅者だった
俺は若くて力持ち
そこは小さな村だった
俺はあの娘に惚れていた

2.
娘に不幸が見舞うなぞ
俺は夢にも知らなんだ
駅者の稼業は
西東（にしひがし）
心はいつもあの娘

郵便馬車の駅者だった頃

【訳詞】井上 頼豊
【詞曲】ロシア民謡

□□■■

３．
安らいのない 日々だった
想いは深く胸痛む
ある日かしらが
手紙を渡し
「早く頼むぞ駅どめだ」

４．
馬はいななき鞭がなる
はやてのように野を走る
だけど胸はつぶれそう
あの娘とこんなに
遠くなる

郵便馬車の駅者だった頃

【訳詞】井上 頼豊
【詞曲】ロシア民謡

□■■■

5.
風が悲しくほえていた
ふいに馬めが暴れだし
怯えたように脇を見た
俺には訳が解らない

6.
動悸が激しく高まって
俺は見つめた雪の中
暴れる馬から
飛び降りた
誰かが道に倒れてる

郵便馬車の駅者だった頃

【訳詞】井上 頼豊
【詞曲】ロシア民謡

■■■■

7.
吹雪は渦巻き
あれていた
俺は雪をばかき分けた
血の気が失せて
立ちすくみ
寒さがシューバにしみた

8.
皆の衆
あの娘が死んでいた
茶色の瞳を閉じて
酒をくれ早く酒を
もうその先は話せない

End